

観自在

弘長寺寺報

第2号

平成十三年

六月

えこうへんしょう
回向返照の

弘長寺副住職

森田裕光

たいほ
退歩を学すべし

(一歩退いて

本来の自己を見つめること)

道元禅師様の著書「普勸坐禅儀(ふかんざぜんぎ)」の中に
ある私の大好きな言葉です。
私などは余りに忙しすぎる
日常に追い立てられて、自分
を見失い、ハッと我に返る事
がしばしばです。

そんな時にこの言葉を思い
出し、静かに坐るだけで「あ
あ、そうだった」と軌道修正
することができまます。

この言葉は「がむしやらに
前進」と真反対の「ちよつと
待てよ」「お先にどうぞ」と
いう意味になるのではないで
しょうか。

心の中に余裕がないととて
もそのように思うことが出来
ませんが、その余裕が出来
るようになると顔や態度・言

葉に表れ、人間形成の土台と
なっていくのでしようね。

そう考えるとなかなか「ちよつ
と待てよ」「お先にどうぞ」
と思えない自分が情けなくな
ります。

その「ちよつと待てよ」と
思えるようになる近道は、坐禅
だと道元様はおっしゃる。

そこで、だまされたつもり
で、気楽に二分か三分、背筋を
伸ばして坐ってみませんか。

無理に足を組まずとも、正
座でもイスに腰掛けても大丈
夫です。理想は朝晩二回の
坐禅ですが、とりあえず眠る
前に何も考えず、ただ坐って
みましょう。

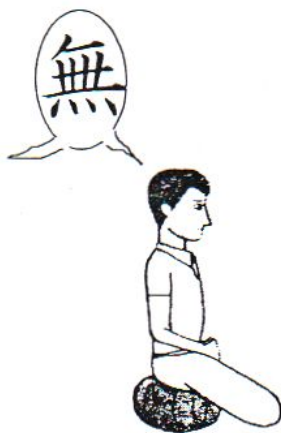
私たちは肉体が疲れると寝
る前にお風呂に入って身体の
洗濯をしますが、心(頭)の

洗濯をしていません。

NHK「ためしてがってん」
で紹介されましたが、スポー
ツをした後、ストレッチ体操
によって筋肉が運動を停止す
るように頭の中もストレッチ
体操が必要なのです。

(寝るのではなく覚醒状態で
何も考えずに坐禅をすると、
医学的には脳内にα波が出
ることが証明されています。)

坐禅で頭の中をストレッチ
して翌日に疲れを残さなけれ
ば、「ちよつと待てよ」と思
う余裕ができる：道元様を信
じていざ、坐ってみましょう。



時

坂村真民

日の昇るにも
手を合わさず
月の沈むにも
心ひかれず
あくせくとして
一世を終えし人の
いかに多きことぞ

道のべに花咲けど見ず
梢に鳥鳴けど聞かず
せかせかとして
過ぎゆく人の
いかに多きことぞ

二度とないこの人生
いかに生き
いかに死するか
耳かたむけることもなく
うかうかとして
老いたる人の
いかに多きことぞ

川の流れにも
風の音にも
告げ給う声のあることを
知ろうともせず
金に名譽に地位に
狂奔し終わる人の
いかに多きことぞ

生死事大無常迅速
時人待たず

噫

仏様発見

われつねここにお
吾常に之に于いて切



弘長寺護持会
会長 土江嘉久

今からおおよそ二二〇〇年ほど前、唐(今の中国)の国に、洞山(八〇七〜八六九・中国で曹山とともに仏教の曹洞宗を開いた人)という和尚様がおられました。

その当山和尚様のところへ、修行の若者がやってきて、こういいました。

「私は本当に生きた仏様のような立派な人になりたいと思つて修行をしています。でもどこをさがしても仏様の姿も形も見えません。」

ほんとうにおられるでしょうか。今日は仏様を實際にお呼びして真の姿を見せてください。」

とお願ひしました。

すると洞山和尚様は「おられるよ見せてあげる」とうなずいて若者と向き合われました。

「よいかね。お釈迦様や達磨様にお会いしようと思つて、ご在世であつた何百年も何千

年も前に時代をもどそうとしても出来ることではない。逆に何百年も何千年も先に時代を進めてさがることも出来ない。又ここ以外、他のところへ行つていくら仏様を捜しても見つけだせるものではない。ありません。」

ここまで和尚様のお話を聞いた若者は「仏様はやつぱりおられない」と思つたとき

「吾常に之に于いて切。仏様は常に真の人間として生きようとする吾(自分)とならいつもいつしよにいらつしやる。時や所を問わず、その吾とはいつしよ一体できりはなすこととはできない関係にある。」

だから常に吾自身が、生涯二度とない今を大切に、何事も一生懸命はげむことですよ。」とさとされました。

そこに生きた仏様の姿が見える。若者は合掌しました。仏様を自分の心眼で発見できたのです。

時代は変わつてもこのおさとしは今に生きています。

合掌

参考文献

生活の中の禅 秦 慧玉

お願い

●八月七日は一年中で最大の法要、お施食会を厳修いたします。

悪道に墮ちた亡者や申う人のない亡者、有縁無縁の精霊に食を供えて修行し、その功德を「先祖様や亡くなった先亡精霊の方々へ回らし手向ける法要です。」

本年より私が導師をつとめさせていただきます。施食法要の後、現在梅花流特派師範で全国を御詠歌指導で歩く私の弟、広瀬安養寺住職、村上正光師の法話を、一時間予定いたしております。

●私に昭和三十二年に管内布教師(現在は宗務所布教師と改称)を拝命し、以来毎年二十から三千の説教・講演をこなしております。昨年も広島へ一週間、邑智郡へ十日間ほど泊まり込みで長期布教に出かけましたけれども、今年は今方丈様が檀務に復帰できる見込みがないものですから、長期の布教巡回は避けたいと思つておりますが、近隣の布教まで拒否するわけにはまいりません。

問題はちやうどその時にお葬式ができることです。

そこで、誠に申し訳ありませんが、法務・病氣・のつびきならぬ私用等のためやむをえない場合は、近くの寺院の方丈様に導師をお願いすることもありますので、どうかご理解いただきますようお願い申し上げます。

●葬儀の後初七日位まで床の間に飾っていただく十二仏が返却されず行方不明です。

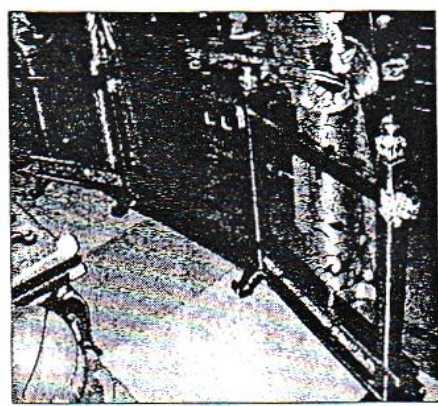
お知らせ

掛け軸を点検していただいて、古い十三仏で裏の名前が我が家と違ふ時は、お寺にお返し下さい。

●池田団地の梅 雅士殿が新しく檀家となりました。よろしくお願ひいたします。

●位牌堂の旧位牌は間もなく処分予定です。次のステップは、全檀家の金箔位牌を揃えること。あせらず進みましょう。

●極上彫入り塔婆立てを喜捨していただきました。内陣・大間が一段と鮮やかに荘厳されました。お寺での法事の際、あるいは施食会等で活用させていただきます。



●位牌堂(阿弥陀堂)の天井電気を喜捨していただきました。あまりにも暗すぎて金箔位牌の字が見えづらかった位牌堂に、蛍光灯四基をつけていただき明るくなりました。

施主 大森 吉岡孝一殿

道元禪師様

七百五十回大遠忌迫る

来年は、曹洞宗開祖 道元禪師様の七百五十回大遠忌正当年になります。

道元様は鎌倉時代、千二百年にお生まれになり、一二五三年に五四才で示寂されましたので、七百五十回忌の大法要の年に当たります。

次の遠忌は五十年先、私も含め多くの方がとて次の遠忌法要には出会えませんから、こゝが最後の勝縁となります。

大本山永平寺様や中国管区では様々な法要やイベントが企画されており、すが、当山は来年6月末の団体参拝(団参)に参加いたします。

本山の法堂で五十年に一度の大法要を修行できる法悦を共に味わいたいと思います。

団参は来年六月二十七日から二十九日迄の二泊三日、永平寺様と和倉温泉でそれぞれ一泊、能登の総持寺・永光寺等を拝登致します。申し込みは、一年前の本年六月二十五日となっていますので、早めにお申し込み下さい。



永平寺中雀門(山野辺 進画)

御詠歌に

親しんでみませんか

夏のお施食会でおなじみの弘長寺御詠歌講は、昭和六十三年に開講し十四年目に入りました。

現在約三十名の講員がお寺の研修道場(第二庫院二階)・浜公民館・中垣公民館と三グループに分かれて楽しく研修しています。

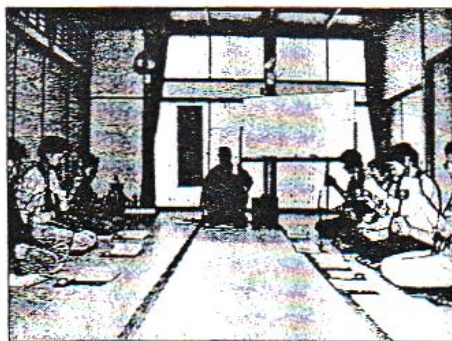
仏教をやさしく勉強しつつお唱えを楽しんで、お茶を飲み、雑談に花が咲き、和気あいあいのつどいです。

年に一度の奉詠大会では、県民会館のステージの上でドキドキしながら登壇奉詠を致します。

講員の皆様が何年経っても若々しく

美しいのは、信仰と笑うこととこのドキドキのお陰ではないでしょうか。御詠歌に興味のある方、仏教をやさしく学びたい方いつでも入講歓迎致します。

足の痛い方はイスを使用します。



浜地区(月組研修風景)

これは浜西(月組)講員

伊藤ヤスエさん

からの寄稿文です。

今日はこちらの地区は代満(しろみて)(今の人は泥落としと言う)です。亡くなった年寄りの五十年忌でお寺やお墓参りをし、さわやかな気持ちで家へ帰りました。

隣のおばさんが、二十八日は御詠歌がありますと知らせてくれました。

何かと多忙な毎日ですが御詠歌の練

習だけは欠席せず、出かけさせて頂いています。

無欠席の割に上手になりませんが、出席することに意義があると自分に言い聞かせています。

ご多忙な和尚さんがわざわざ教えに来てくださって、覚えにくい私たちに朗らかに教えて下さり、友達とも世間話をしたり、私には気持ち安らぐ一時間です。

仲間になった当時はこんな難しいこといつまで続くやらと心配していましたが四年目となりました。

うちの地区では最年長となりいつまで出かけられるかなと思っておりますが、気持ちだけは若い人に負けられないと考えています。

一つ自慢な事は、私だけめがねを使わないことです。

腰は曲がっていますが目と耳は今のところ大丈夫です。

いつまでも元気で出かけさせてもらいたいと願っています。

しろみてや、労のたまりし爪を切る初夏の風野良着を替えたらちと涼しのびすぎたわらびと遊ぶしろみてに

五月二十六日 浜西 伊藤ヤスエ

仏教豆知識

質問

弘長寺の由来を教えてください。

答

資料が乏しく（三通の文書しかない）、詳細には判らない点も多いのですが、弘長寺は弘長三年（一二六三年）に建ったので、その年号から名前が付きました。

鎌倉時代、一二二一年の「承久の乱」後に武蔵の国から入部した地頭、藤原満資（みつすけ）の建立です。

お寺を建てた寄進者を開基と申します。弘長寺開基様の戒名は、「弘長寺院殿満資道円大居士」（こうちやうじいんでんまんしつどうえんだいこじ）と申します。

藤原氏は成田氏と同族で、宍道郷地頭・成田氏や出雲・成田氏の一族結合の中心（氏寺）として権威の象徴のために弘長寺を建てたと考えられる。

本尊は阿弥陀如来、高さ六メートル、顔面は金箔塗りの巨大なもの。

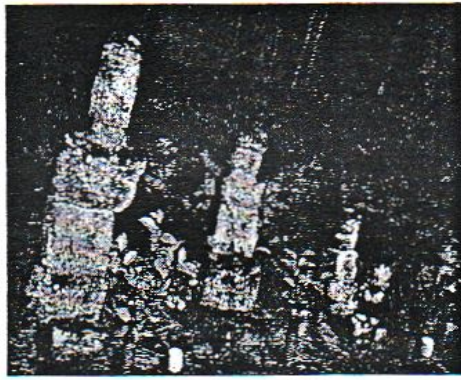
満資は主君である北条重時、時頼の菩提を弔うため、この本尊とこれを収めるための堂舎を作り、僧三十人を配置して供養

を行い、またこれを維持するために寺領七町と山野を寄進したという。

金沢文庫の「大仏旨趣」中に、「八幡大菩薩と申すは阿弥陀の三尊なり」とあるように、鎌倉幕府は、幕府の象徴である鶴岡八幡宮と阿弥陀如来の鎌倉大仏は一体であると考えていた。

だから満資が幕府の象徴である阿弥陀如来を建立したのも納得できます。

当時武士の間にも急激に広まった法然上人の念仏の影響を受けていることも十分考えられ、浄土宗の可能性が高いでしょう。



弘長寺開基様の墓

建立当時の実質開闢開山は実庵見貞大和尚様でございます。その後の弘長寺の経緯や成田氏没落の経緯はよく判っていません。

最近発刊された宍道町史では、

明応五年（一四九六年）、弘長寺の宗順が三沢氏に宛てた書状を取り上げ、仁多の三沢氏の保護下に身を置こうとしたのでは？とあるが極めて根拠は薄い。

弘長寺がこの頃曹洞宗に改宗したのでは？とあるのはその通りなのですが、その理由を三沢氏の菩提寺である晋叟寺が曹洞宗であるが故に？との説は全く見当違いです。

弘長寺が曹洞宗に改宗したのは、むしろ尼子氏の影響の方が強い。

何故なら 尼子氏の菩提寺、広瀬・曹洞宗洞光寺の二世（実質開山）、天麟星壺大和尚（一五一五年示寂）を弘長寺の拝請開山として迎えているからです。

三沢城は城跡しか残っていませんが、もしかして晋叟寺様に宗順提出の諸書状が保管してあるのではと問い合わせましたが、全く無いとのことでした。

その後 広瀬の洞光寺は七世時に松江に移り、広瀬は無住の後十数年後に七世の末裔が再興し、現在尼子菩提寺として松江と広瀬に二つの洞光寺が存在します。

弘長寺の本寺は松江に移った方の洞光寺様です。

質問

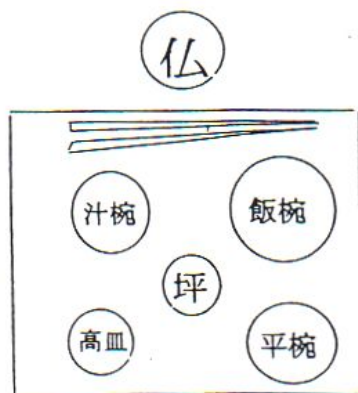
仏膳の並べ方はどうなってるのでしょうか。






答

葬儀屋さんの間違って印刷したものが全国に回ってからの混乱したそうです。

曹洞宗の仏膳の並べ方です。※ご法事の際は仏壇にもお膳をお供えしましょう。

※特に坪と高皿が逆になりがちです。



-  飯碗…ご飯
-  汁碗…吸い物・みそ汁
-  坪…煮物・酢の物・ごま合せ
-  平碗…煮込んだ物
-  高皿…漬け物